

豊能町総合まちづくり計画審議会（第2回）議事概要

日 時：令和2年11月19日（木）午後2時00分～4時10分

場 所：豊能町役場2階 大会議室

出席者：委員13名、事務局5名

傍聴者：4名

1. 《議事》豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

①豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略の目指した姿及び結果について（資料1）

(2) 主な質疑、意見

[委員] まち・ひと・しごと創生総合戦略については結果が出ている。出来ていない部分を議論しても仕方ない。過去の問題点を取り出し、その解決方法について議論した方がよいのではないか。

[副会長] まち・ひと・しごと創生総合戦略の結果はあくまで議論の材料として受け止め、「議事②：将来の見通しと主要な論点について」をメインに議論してほしいというのが事務局の考えではないか。

(事務局) できればそのようにお願いしたい。

2. 《議事》将来の見通しと主要な論点について

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

①第4次総合計画の基本目標に沿った現状と課題などについて（資料2）

(2) 主な質疑、意見

[委員] 豊能町に限らず、活力のあるまちづくりに関心を持っていない人が増えているのではないか。今の住民は自分たちが何をすべきか理解していない。このままでは豊能町は死んでしまうから、住民の方にもある程度犠牲を払ってもらう事態になるかもしれないが協力してほしいと、住民が理解するまで強く訴えるべき。

また、人口は少ないが旧村が豊能町の文化・歴史を受け継いできている。しかし、旧村以外の人が入ってくることを拒んでいる。旧村以外の人たちにも受け継げるようにしなければ豊能町の文化が消えてなくなってしまう。

- [会 長] 総合まちづくり計画はそれぞれ当事者のための計画。当事者が変わらなければ町も変わらない。外とつながることで町は発展していく。豊能町は外からどう見られたいか、どんな感じで見たいかをしっかり考える必要がある。
- [委 員] 町外から若者が入って来て、いろいろなことにトライしている。しかし、その時に支える者がいない。町は彼らのトライを支えるような目線が必要ではないか。アンケート調査結果の住民の意見を聞いて分析するよりも、何ができるかを自由に考える方がよい。
- [委 員] どこかで何か活動をしようとすると必ず地域の力がある。まちづくりとはコミュニティを作ることであり、そのために地域でまずベース（舞台）を用意すべき。地域住民に納得してもらったうえで、新しい層を呼び込み活動してもらえばよい。その過程でコミュニティも形成される。
- [委 員] 生活支援団体に所属しているが、利用者・提供者ともに年々増加している。地域で支え合う活動は、みんなが必要としていることだと思う。人の力も地域の資源である。
- また、町の特徴は自然の豊かさ。能勢電を使ってアピールすれば違う地域からも来ると思う。ほかにもダイハツ工業による高齢者への運転指導や池田泉州銀行による資金運用など、企業とのコラボイベントがあれば面白い。地震に強いのも売りになる。介護保険計画のデータによると高齢者のスマホ利用率は 40%を超えている。政府もデジタル庁を創設するので町としても取り組んでいくことを示すのは良い。公共交通も料金を少し割引く交通パスはどうか。チケットを持っていればバスに乗ろうという気になると思う。若者にシェアオフィスやキッチンカーでトライするチャンスを与えるのも良い。野菜についても豊能町産を町内のスーパーに置いたりネット販売したりするなど、まちづくりの一環に加えてほしい。
- [委 員] 民間企業との連携は大事。まだ形になっていないが大阪府にも担当部署があり、一緒に何かできないか打ち合わせをしているところ。公共交通へのニーズが高いことも理解している。高齢者が多く、いつも担い手がない、ニーズがない、できないという話になるが、そういう方ばかりではないという話も聞いた。今後施策を検討する際には、高齢者が多くできないと思考停止していないかとの観点で議論していきたい。
- [委 員] 公共交通の問題が一番重要。高齢化で運転できなくなるという話もあるが、公共交通を充実させることで転入者を増やせる。総合まちづくり計画なのである程度総花的にならざるを得ないが、重点的に取り組むものを決めなければ結局何も変わらない。今期の計画ではこの問題を重点的に取り組んでほしい。
- また、アンケート結果では転出したい理由として「日常生活の都合」が一番

多かった。町内には飲食店や商店が少ない。新規開店時の一部助成など何かしなければジリ貧。今期の計画ではこの辺りが少しでも前に動くようにできたら。

〔委員〕町のワークショップに参加したことがあるが、政策があっても結局他人事でまちづくりが進まないという意見が出ていた。実際に自分の町がどうあってほしいかを考えると自分ごとになる。住民の方がもっと町について考える機会があればよい。地元で自己実現できれば、もっと町を好きになるのではないか。その機会を増やしていけば、町はもっと元気になる。住民と行政との協働を一番大事にすればまちづくり全体に繋がっていくと信じている。

〔委員〕豊中市や大阪市から転入してきた人に、「豊能町は公共交通が便利。不便は全然感じない。」と言われたことがある。それがヒントになった。町内には病院もスーパーもあり、豊中市や箕面市の僻地に比べると便利な方ということ。そういう人にとっては、まだ需要があるのではないか。

また、福祉計画のアンケートでは相談する場所が分からないという回答が多いが、今は自助と言われている。自分が生きていくためには自分自身で努力することも必要。町からも自助と強く言ってほしい。

〔委員〕道路、橋、上下水道の老朽化が進んでいるので、ハード面も主要な論点に加えてほしい。

また、災害防止の観点から森林や農地の保全も論点に加えてほしい。

〔委員〕緑豊かな町なので、景観に配慮して整備することを強調してほしい。美しい町でなければ将来はない。

また、地域の人々のいろいろな動きは、次の時代をつくる非常に大事な力だ。前向きな新しい動きを大事にしてサポートしてほしい。「新しい公共」ということも前から言われている。そういうあり方を支えていくのがこれからの行政だと思う。

〔委員〕介護等の相談ニーズに応じていこうと、店頭で福祉相談会を開催した。高齢化に向け、地域の企業としての役割を果たしていきたい。

〔委員〕住民が楽しんで外にも伝えていくような観光のあり方が理想的だが、オーバーツーリズムに近いようなことが起こっている。着地型観光に変えていく必要がある。豊かな自然環境の保全もビジネスになる。具体的に組み入れるよう計画に盛り込んでほしい。

〔会長〕計画を具体的にどう展開していくかということ視野に入れて作らなければ、単なる言葉に終わってしまう。今後は内容についてももう少し具体的に議論していく。今日指摘いただいた点を参考に作っていくが、第3回か第4回の審議会で案としてまとめなければいけないので、そのつもりで。

3. 《議事》その他

〔委員〕豊能町における動向の中に、町の中で新しい芽が出ていることを取り上げてほしい。

〔会長〕豊能町に新しく進出してきた企業が、この町に来た理由や何を期待しているのかというようなことを聞く機会があれば。

（事務局）調整させていただく。

4. その他

（事務局）次回は令和3年3月23日（火）午後2時から開催予定。

5. 閉会

（1）午後4時10分に閉会した。

本議事録にかかる会長の内容確認・署名

本議事録について議事内容と相違ないことを確認する。

豊能町総合まちづくり計画審議会会長